

妊娠中の母乳育児の推進に対する取り組み

「母乳育児成功のための10か条」の第3条には、妊娠した女性すべてに母乳育児の利点と方法に関する情報を提供しましょう。と述べられています。多くの文化では、女性たちは母乳育児をするものだとして当然のように考えています。一方、母乳代用品（例えば粉ミルク）が広く宣伝、販売促進されていて、ほとんどの女性が出産する前に母乳で育てるか否かを決めるような文化の社会もあります。保健医療従事者が、できるだけ早期から母乳育児教育を行い、母乳育児をするのに困難を伴うリスクのある母子を認識しておくことが大切です。当院では、妊娠20週・36週での母乳外来（無料）、母親学級（両親学級）前期・後期（無料）、希望者に助産外来を実施し、母乳についての正しい情報の提供やおっぱいのお手入れについてお話し、母乳育児がスムーズに行えるように支援をしています。



母乳育児の利点

* 赤ちゃんにとって良い点

1. 栄養的に優れています。
2. 免疫が含まれていて、ばい菌に対して抵抗力が強くなります。
3. 消化、吸収が良く、ビフィズス菌を増やしお腹の調子を整えてくれます。
4. 情緒が安定します。
5. 顎の発達が脳の発達につながります。
6. 牛乳アレルギーがありません。



* お母さんにとって良い点

1. 子宮の収縮を助けます。
2. 経済的です。
3. 哺乳瓶の消毒や調乳、湯冷ましの準備といった手間がかかりません。
4. お母さんの気持ちをゆったりさせてくれます。
5. 妊娠中に増えた体重を元に戻す効果があります。

（参考：いわいマタニティーブック p 29）



特別な配慮が必要な母親への支援

特別な配慮が必要な母親とは、上の子が母乳育児がうまくできなかった、シングルマザーなども含まれますが、HIVやHTLV陽性の母親も含まれます。多くの研究で感染症がある場合でも6ヶ月間は母乳育児をしたほうがその後の感染リスクが減少するとの報告があります。母親に正しい情報を提供し、母親が自ら納得した選択ができるように支援することが必要です。

お問い合わせ

この通信の内容に関するだけでなく、現在妊娠中・育児中の方、その家族や上司の方などの、母乳に関する様々な相談もお受けいたします。また、月1回発行予定の本通信に掲載させていただける皆様のかわいいお子様の写真も募集中です！さらに、一緒にこのチームに参加して頂ける方も大募集！！どうぞお気軽にご連絡ください★

BFHプロジェクトチーム

チームリーダー：今野貴子（3西病棟）

通信発行担当：佐藤 恵（3西病棟）

